

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2014

課題番号：22520552

研究課題名(和文)英語教員養成における「チーム・ティーチングの基礎能力育成」の連携プログラム開発

研究課題名(英文)Development of Program to Foster Team-Teaching Ability in EFL Teacher Training

研究代表者

HOOGENBOOM RAY (HOOGENBOOM, RAYMOND B.)

群馬大学・大学教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：80436295

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本人教師が外国人指導助手(ALT)と共に行うチーム・ティーチング(TT)は、小・中学校双方の英語の授業で極めて一般的な指導形態である。小学校英語活動の主な指導者は英語が専門でない学級担任が大半であるため、大学の英語教員養成では、中学校だけでなく小学校でも英語指導の中心となり、効果的にTTを行える力を育成する必要がある。そこで本研究は、大学で英語教員養成を担当する英語話者教員と日本人教員が連携し、英語教師を志望する学生を対象として、13の下位プログラムから成るTT基礎能力育成のプログラムを構築した。

研究成果の概要(英文)：Team-teaching between a Japanese teacher of English (JTE) and an English-speaking Assistant Language Teacher (ALT) is one of the most typical teaching formats in the current English language classroom in Japan. Because the majority of current homeroom teachers instructing Foreign Language Activities within elementary schools are neither specialized in English teaching methodology nor proficient at using English, college EFL teacher-training programs are responsible for development of future English teachers who are able to deliver English lessons with ALTs efficiently not only in junior high school, but also in elementary school. For this reason, this research project has developed a program, which is consisted of 13 sub-programs, to foster team-teaching ability of English-education majors under collaboration between English-speaking and Japanese-speaking college instructors.

研究分野：英語科教育法

キーワード：チーム・ティーチング ALT JTE コミュニケーション能力 英語教育 英語活動 外国語活動 教員養成

1. 研究開始当初の背景

英語指導助手(ALT)とのチーム・ティーチング(TT)は、今日の日本の英語教育においては極めて一般的な学習指導の形態である。JET(Japan Exchange and Teaching)と Non-JET を合わせると、現在ではほとんどの中学校に1名のALTが配属されているが、小学校でも教員が定期的に ALT との TT で英語活動を行う場合が非常に多い。本研究開始時の平成 22 年度は、例えば群馬県では、全中学校(180 校)で日本人英語教員と ALT との TT が行われており、小学校では全校(340 校)で外国語活動(以下、英語活動)が実施されている中、大半が担任教師と ALT との TT であった(群馬県教委調べ)。このように、小・中学校の双方で「ALT との TT」が担う役割は非常に大きく、英語教育(英語活動)に携わる教員には「ALT の存在を効果的に活用できる TT の能力」が強く求められる。ALT の存在を十分に生かすことができれば、外国語環境下でありながらも「コミュニケーション能力の素地と基礎」を連続的に築くために非常に有効な手段となる。研究開始時の平成 22 年度は、翌 23 年度の英語活動必修化を目前に、英語が専門の教員には、中学校はもとより、小学校でも英語が専門でない他の担任教師の中心として、学校全体の英語活動の発展に貢献する必要性がより明白となっていた。こうしたニーズに応える一方策として、大学の教員養成において「ALT の存在を効果的に活用できる TT の能力」を十分備えた新しい英語教員を輩出することは、英語教育の質の向上に直接関わる極めて重要な課題であると考えられた。そこで、本研究は「小・中英語教育の連続性を視野に入れた ALT との TT の質向上と効率化」を目指すため、大学の英語教員養成における TT 能力の育成プログラムを、英語母語話者教員と日本人教員の連携により構築することにした。

2. 研究の目的

本研究の主な目的は、英語教員を目指す学生を対象とした『TT 能力養成プログラム』の開発である。このプログラムは、ALT と日本人教師の統合的な視点から、英語教員養成向けに「TT 能力の要素」を具体化し、英語母語話者が担当する授業と日本人教師が担当する授業の連携を核として、個々の学生に対応した手立てを施しながら、卒業時までの4年間で TT 能力の基礎を養うことを目的とする。

本研究では、これまでに我々が教育現場の実情に即して既に構築した『小・中英語チーム・ティーチングマニュアル』(基盤研究(C)平成 19~21 年度、課題番号 19520479、研究代表者 HOOGENBOOM、分担者 上原)の活用を背景に、TT 能力を十分備えた英語教員を送り出すプログラムを開発することにより、英語活動必修化に伴う「中学校英語教育の充実」と「小・中英語教育の一貫性の構築」という大きな課題を背負う教育現場への貢献をす

ることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究では、以下の図 1 に示す枠組みを柱とし、主に次の過程を経て、プログラムの構築を行った。

- (1) JTE に求められる技量の要素の分析
- (2) 上の(1)から、ALT との TT で JTE に求められる技量の要素の抽出と体系化
- (3) 英語教育専攻学生の観点からの「望まれる英語教師像」の要素と(1)との対比によるギャップの掌握
- (4) 英語におけるコミュニケーション能力の育成を目指す TT の言語活動の実態把握とそのあり方の検討
- (5) 英語におけるコミュニケーション能力育成を目指す TT における学習者に分かり易いインプットの要素の検討
- (6) TT 能力を支える英語力の要素の体系化
- (7) TT 能力を支える英語力以外(指導力、認識等)の要素の体系化
- (8) TT 能力を養う下位プログラムの構築
- (9) TT 能力を養う下位プログラムの授業と課外活動等への対応
- (10) TT 能力を養う下位プログラムの実践と改良

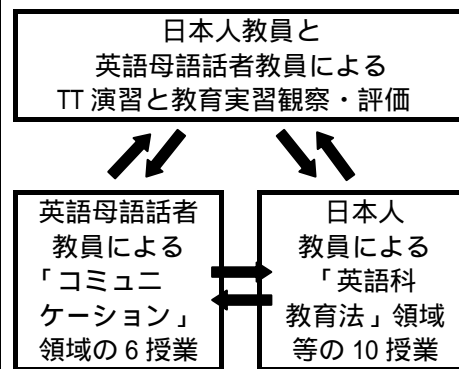


図1. 英語母語話者教員と日本人教員の統合的な視点からの連携による『TT 能力養成プログラム』の枠組み

ここでは、先に挙げた(1)~(10)についてのあらましを述べることにする。(1)と(2)では、我々の行ってきたこれまでの研究(Hoogenboom 2009、フーゲンブーム・上原 2006、上原 2007、他)を基盤として、日本人英語教師に求められる技量を上位4項目(英語力・背景知識・指導力・自己研鑽力)とその下位項目で捉えた後、ALT との TT で JTE に求められる技量の要素の抽出と体系化を行った。その際、TT 成功のための要素として、ALT と JTE の役割と機能の明確化を図るとともに、両者間の意思疎通のあり方についての再確認を行った。次に、(3)で挙げたこうした我々の観点と英語専攻学生が抱く「望まれる英語教師像」との相違点の掌握を行った。その主な理由としては、学生の認識とのギャップを知ることによって、各種の活動を統合して構築するプログラムの重点が推測できると考

えたためである。(4)と(5)では、育成を目指す英語におけるコミュニケーション能力の定義づけを行うとともに、現職教員や教育実習生が行う授業の観察と分析から、TTにおける言語活動のあり方と学習者に分かり易いインプットの要素を検討した。これらを通して、(6)と(7)に挙げた TT 能力を支える要素の英語力とそれ以外（指導力、認識等）への分類を行った。ここで分類した要素を互いに関係し合う TT 能力の下位能力と捉え、(8)と(9)では、それらを養うための小プログラムを、日常の授業と課外活動等で4年間を通して発展的に継続できるよう体系化した。(10)では、これらを下位プログラムと呼び、実践と改良を繰り返し行った。

こうした過程を経て本研究で開発した『TT基礎能力育成の連携プログラム』は、下位プログラム数合計 13 から成り、以下の表1～表3に示す授業とその他の課外活動や特別授業で実践を行う形となった。各表の右列は、「4.研究成果」の表4で用いる各授業の略称である。表1の「英語コミュニケーション」領域の6授業は英語母語話者教員が担当し、表2の「英語科教育法」領域等10授業は日本人教員が担当している。また、表3は、双方の教員の授業の延長や補充として、学生各自が行う課外自主学习や特別授業として実施される模擬授業やその他の授業である。

表1「英語コミュニケーション」領域6授業

| | |
|----------------------------------|----|
| Oral Communication Strategies I | C1 |
| Oral Communication Strategies II | C2 |
| Reading I | R1 |
| Reading II | R2 |
| Writing I | W1 |
| Writing II | W2 |

表2「英語科教育法」領域等10授業

| | |
|------------|----|
| 英語1年（教養科目） | E1 |
| 中学校英語科教育法Ⅰ | J1 |
| 中学校英語科教育法 | J2 |
| 英語科教材研究 | M1 |
| 英語科教材研究 | M2 |
| 言語学と英語教育 | L1 |
| 応用言語学 | A1 |
| 応用言語学 | A2 |
| 応用言語学研究 | A3 |
| 応用言語学研究 | A4 |

表3 その他

| | |
|--------|---|
| 課外自主学习 | H |
| 特別授業 | S |

4.研究成果

本研究で開発した『TT基礎能力育成の連携プログラム』は、以下の表4が示す13の下位プログラムから成る。表の左列の番号(1)～(7)はTT能力を支える要素の英語力を、(8)～(13)はTT能力を支える要素の指導力や認識を、

それぞれ養い高めるための下位プログラムである。表3の1年～4年の列では、先の表1～3で示した授業の略称を用い、どの授業で発展的に継続されていくかを示している。表3の1年生の(8)と(10)～(13)のプログラムを、それぞれ(C1C2)や(S)などと表記しているのは、そのプログラムの準備段階として、()内の授業等で導入する意味である。また、2年生の(2)のプログラムに(10)(12)とあるのは、このプログラムが2年生で始まる(10)(12)の基礎として、1年生のC1とC2の授業で行われるという意味である。1年生～4年生のそれぞれのセルには、上段に英語母語話者教員が担当する授業で行う下位プログラムが、その下の中段または下段に日本人教員が担当する授業で行う下位プログラムが記されている。

表4『TT基礎能力育成の連携プログラム』

| No | Program | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|------|---|------------------|------------------|------|------------|
| (1) | Extensive Listening Program | C1C2 | H⇒⇒ | A1A2 | H⇒⇒ |
| (2) | Spoken Journal Program | C1C2 | (10)⇒⇒ (12)⇒⇒ | ⇒⇒ | ⇒⇒ |
| (3) | Timed Speech Program | C1 | J1 J2 | A1A2 | A3 A4 |
| (4) | Extensive & Speed Reading Program | R1R2 | W1W2 | A1H⇒ | H⇒⇒ |
| (5) | Vocabulary Development Program | R1R2 | W1W2 | A1A2 | A3A4 |
| (6) | Note-taking Program | C1 C2 | J1J2 | S⇒⇒ | S⇒⇒ |
| (7) | Pronunciation Brush Up Program | C1C2 E1 | H⇒⇒ | ⇒⇒ | ⇒⇒ |
| (8) | Writing Program | (C1C2) (R1R2) | W1W2 J1J2 | H⇒⇒ | S⇒⇒ |
| (9) | Skit Creation Program | C2 | E1 E2 | L1S⇒ | S⇒⇒ |
| (10) | Method Discussion Program | (S) | J1 J2 | L1S⇒ | A1 A2 S |
| (11) | TT Plan Making Program | (S) | M1M2 | S⇒⇒ | S⇒⇒ |
| (12) | TT Micro Teaching Program | (S) | M1M2 | L1S⇒ | S⇒⇒ |
| (13) | Materials Creation/Presentation Program | (S) | M1M2 | L1S⇒ | S⇒⇒ |

下位プログラムは相互に関連させて行っていく。それぞれの概要は次の通りである。

(1) Extensive Listening Program

学習者は毎週30分以上のVOA Learning Englishの多岐に渡るニュースを一つにつき

複数回聞きながらメモを取り、配布されたワークシート(Listening Response Journal)に概要、詳細等を英語で記入し、教師に提出して英語でのコメントを得る。

(2) Spoken Journal Program

学習者は、(1)で聞いた内容について、2~3分の感想を英語で話して録音し、教師にオーディオファイルとしてe-mailへの添付で送る。その際、メールのメッセージを英語で書く。

(3) Timed Speech Program

流暢さと即興性のトレーニングとして、絵または写真だけの10枚のスライドそれぞれに対し、20秒以内で英語で説明をする。話をする以外の学習者は、Timed Speech Assessment Sheetの項目に評価をする。スライドは学習者が作成する。

(4) Extensive & Speed Reading Program

学習者は、始めに自分のレベルを判定するためのテストをオンラインで受け、図書館でそのレベルに合ったgraded readersを選び、毎週8,000語以上読む。記録ノートに読んだ語数とReading Response Journalを書いて教師に提出する。このJournalには、話の背景、要旨、気に入った登場人物と理由、気に入った場面、話が伝えようとしていること、人に勧めるか否かと理由、の6項目を英語で書き、教師からの英語のコメントを受ける。ノートは一人当たり2冊使い、学習者と教師のやり取りが滞らないようにする。

また、読みの流暢さを向上させるため、授業の最後の5分ほどを使い、難易度を下げた教材で速読の訓練をする。この教材は、英語の文章と内容に関する質問事項が有り、1分当たり何語読めたかをSpeed Reading Worksheet記録していく。

(5) Vocabulary Development Program

下級生はExtensive Reading Programで読んだ本またはJACET 8000語の中から、上級生は教師が配るAcademic Vocabularyの中から、毎週15語を選び、発音、綴り、意味、使い方をカードに記入する。ペアになり、教師が配るワークシート(Vocabulary Quiz Sheet)と相手のカードを用いて互いにクイズし合う。

(6) Note-taking Program

英語を聞いてメモを効率的に取る方法を学び、その訓練をNote-taking Sheetを用いて行う。(1)のプログラムを始め、多様な場面で訓練を行う。ALTとのTTでは、授業で行いたいことなどを始めとし、書いて情報を交換する場面が多々あることから、重要な要素であると考え。

(7) Pronunciation Brush Up Program

英語教科書や辞書で広く用いられている発音記号を大学入学時まで体系的に学んでいない学習者が非常に多いことから、この下位プログラムは、1年生で英語母語話者教員と日

本人教員がそれぞれの授業で開始する。英語母語話者教員は、標準的な英語として受け取れるための音や強勢・イントネーション等に焦点を当て、日本人教員は発音記号についての知識と技能に焦点を当ててプログラムを開始する。次にCALL教室で、発音診断・矯正アプリケーションを用いてトレーニングを行い、ワークシート(Record of Pronunciation Training)に指摘されたことやよくできたことを詳しく書かせて、教師がコメントをする。学年終了時そのまとめを行い、上達度と改善点を確認させる。

(8) Writing Program

まとまりがある様々な英語の文章を書く力を向上させることを目標とし、2年生で受講する授業で行うが、1年生のOral Communication StrategiesやReadingの授業で、準備として他の技能とともに書く活動を統合的に行う。2年生では、英語の段落構造、物語文と各種説明文の構造を学んで書き、まとまりを作るために必要なDiscourse Markersの習得も重視する。学習者は毎週1つのトピックにつき文章を作成し、e-mailへの添付で教師に送る。この際(2)の下位プログラムのメッセージを書く力をさらに伸ばす。教師は各学習者の作文に英語でコメントをして送り返し、学習者はそのコメントを生かして文章を校正して再度提出する。この下位プログラムではWriting Specification SheetとWriting Draft Chartなどを配布して活用させる。

(9) Skit Creation Program

この下位プログラムでは、2年生以上の(11)~(13)のプログラムで取り組むTTの言語活動で使用するための効果的なスキットを作り、それを教師として他者の前で行って見せる力を養う。そのため、英語母語話者教員が担当する1年生のOral Communication Strategiesの授業から開始する。言語の使用場面と言語の働きに留意して、自然なスキットを作成して、ペアで発表し、クラス全体のディスカッションや教師のコメントを通して良い点や改善点を学ぶ。これには、5つの観点から成るSkit Assessment Sheetを用いる。

(10) Method Discussion Program

ALTとのTTで成功するためには、言語活動を計画する背景にある指導方法などを明確に伝えたり、話し合ったりする能力が不可欠である。また、言語活動を行う目的や行うことについても、英語で正確にかつ適切に意思疎通が図れなければならない。そのため、この下位プログラムでは、発表、ディスカッション、タスク活動などを通して、目標、項目、内容、理由、例などについて英語で理解し、伝える力を育成する。また、ALTとJTEの役割や機能についても理解するための活動を行う。この下位プログラムでは、発表用の英語ハン

ドアウト(Presentation Handout) を発表者ペアが指導者に提出し、指導者の英語コメントをもらって生かし、校正するプロセスをどのペアも2往復ほど行う。また、発表やディスカッションの内容の理解を確認するため、日本語でのまとめも指導者に提出してコメントを得る。

(11) TT Plan Making Program

ALT との TT を効果的に行うためには、予め計画を作り、ALT に分かり易く説明して共通理解を図る必要がある。この下位プログラムでは、ALT の存在の価値を十分に発揮する言語活動を考え、その指導案を英語で作成し、説明する力を身につける。TT 指導案(TT Plan)は、日本語の学習指導案と合わせて作成し、互いに TT Plan Evaluation Sheet を用いて評価した後、コメントし合って学ぶ。

(12) TT Micro Teaching Program

この下位プログラムでは、ALT との TT を想定して計画し、実際にペアで模擬授業を行う。模擬授業を行うため、(11)と(13)のプログラムの活動と関連させて行う。授業者以外は、5つの観点から成る TT Performance Evaluation Sheet を用いて評価し、ディスカッションを通して、コメントを行う。授業者は、ディスカッションの内容を生かして改善点を考える。

(13) Materials Creation/Presentation Program

ALT と TT で行う様々な言語活動に効果的な教材を2年生以上の授業で作成し、その教材を用いて、(12)の模擬授業を行う。作成する教材には、ワークシートや黒板に提示するセンテンスカードやピクチャーカード、フラッシュカードを始め、ゲーム的な活動やタスク活動に必要な教材も含まれる。これらの教材は、中学校用教科書や Hi, friends! を用いて行う授業を想定した(11)の TT 指導案作成と密接に関わっている。学習者は、同学年の学生だけでなく、上級生や下級生からも教材の質と使用方法についてディスカッションを通してコメントをもらい、改善する。これには、5つの観点から成る TT Materials Evaluation Sheet を用いる。

これらの下位プログラムから成る『TT 基礎能力育成の連携プログラム』では、英語母語話者教員と日本人教員間の意思疎通が非常に重要な役割を担う。本研究では、互いの授業を観察し合い、互いの授業が学習者の TT 基礎能力の育成で担う役割を把握し、評価の観点などを共通理解の上で設定し、ワークシートを作成した。その主なものは、以下の通りである。

Listening Response Journal
Reading Response Journal
Timed Speech Assessment Sheet
Speed Reading Worksheet
Vocabulary Quiz Sheet
Note-taking Sheet

Record of Pronunciation Training
Writing Specification Sheet
Writing Draft Chart
Skit Assessment Sheet
Presentation Handout
TT Plan Evaluation Sheet
TT Performance Evaluation Sheet
TT Materials Evaluation Sheet

これらのワークシートは、各学習者の実態を把握するために非常に有効であった。特に、各学習者のカルテとして、TT の基礎能力の要素として捉えた英語力と指導力・認識の実態や向上の様子を把握する上で役立つだけでなく、学習者自身も様々な活動を通して学んだ事柄を把握できていた。

2020 年度に全面実施となるグローバル化に対応した新たな英語教育に向け、2014 年度から様々な準備が行われている。こうした取組における英語教師の役割は現在以上に重要となり、ALT の存在を効果的に生かす力を持ち、英語で英語の授業ができる教師を育成するために、本プログラムの価値は大きいと考える。同時に、小学校における教科型の英語の授業にも十分貢献できる英語教師育成のため、本プログラムの更なる改善を行っていきたい。

< 引用文献 >

Hoogenboom, R. B. Basic English expressions for efficiency enhancement of team-teaching with ALT in English activities. *Annual Reports of the Faculty of Education Gunma University, Cultural Science Series*, Vol.58, 2009, pp.101-108.

レイモンド B. フーゲンブーム・上原景子「英語教育における ALT との意思疎通」『群馬大学教育実践研究』第 23 号, 2006, 群馬大学教育学部附属学校教育臨床総合センター, pp.211-223.

上原景子「今日の中学校英語科教員に求められる技量」群馬大学教育実践研究, 第 24 号, 2007, pp.271-283.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

Hoogenboom, Raymond and Keith, Barry. Increasing spoken output through extensive listening audio journals. *Research in Educational Practice and Development, Gunma University*, 査読有, No.32, 2015, pp.91-102.

上原景子, 芦澤弓季, 日本人英語上級者の英語習得と英語使用の特徴に見る下位中級者の英語力向上への示唆, 群馬大学教科教育実践研究, 査読有, 第 12 号, 2013, pp.57-66.

〔学会発表〕(計 14 件)

Hoogenboom, Raymond. Getting a good start on an extensive listening audio journal project for college freshmen. JALT Gunma/Saitama MyShare Event, Pt.1. 2015 年 3 月 29 日, 埼玉県浦和市, レンタルスペース・ホーリイ

Hoogenboom, Raymond. The role of ALT in Japanese primary and secondary school education. 群馬県教育委員会 平成 26 年度外国語指導助手の指導力等向上研修会(招待講演), 2014 年 11 月 21 日, 群馬県伊勢崎市, 群馬県総合教育センター
Uehara, Keiko. Developing English proficiency of Japanese teachers of English. 平成 26 年度群馬県英語教育協議会 英語力向上ワークショップ(招待講演), 2014 年 10 月 17 日, 群馬県桐生市, 群馬県立桐生女子高等学校

Hoogenboom, Raymond. TESOL and teaching theory: The EFL curriculum, comprehensible input, and the ALT. The 2013 ALT and JTE Skill Development Conference (招待講演), 2013 年 11 月 22 日, 群馬県伊勢崎市, 群馬県総合教育センター

上原景子, 外国語としての英語教育と言語活動の充実, 第 56 回北海道中学校高等学校英語教育研究大会(基調講演), 2013 年 11 月 22 日, 北海道札幌市, ホテルライフォート札幌

上原景子, 外国語としての言語習得と言語活動の充実を考える, 平成 25 年度第 1 回群馬県英語教育研究協議会(招待講演), 2013 年 10 月 17 日, 群馬県渋川市, 群馬県立渋川女子高等学校

上原景子, 小・中の円滑な接続をとおした英語コミュニケーション能力の育成(招待講演), 平成 25 年度上越市 ALT 委員会夏季研修会(招待講演), 2013 年 8 月 23 日, 新潟県上越市, 頸城希望館

Hoogenboom, Raymond. The EFL curriculum, comprehensible input, and the ALT. 平成 24 年度外国語指導助手の指導力等向上研修会(招待講演), 2012 年 11 月 22 日, 群馬県前橋市, 群馬県生涯学習センター

Uehara, Keiko. Objectives of Japanese EFL education and significance of ALT's existence. 平成 24 年度外国語指導助手の指導力等向上研修会(基調講演), 2012 年 11 月 22 日, 群馬県前橋市, 群馬県生涯学習センター

上原景子, レイモンド・フーゲンブーム, 小学校外国語活動の本格実施に際して,

太田市教育研究所学習指導法講座第 1 回(招待講演), 2011 年 8 月 19 日, 群馬県太田市, 太田市教育研究所

Hoogenboom, Raymond. EFL team-teaching: From theory to practice. The 2010 ALT and JTE Skill Development Conference (招待講演), 2010 年 11 月 22 日, 群馬県前橋市, 群馬県生涯学習センター

上原景子, レイモンド・フーゲンブーム, 小学校外国語活動の基本的な考え方と進め方 ティーム・ティーチングにおける ALT の存在の活用, 太田市教育研究所学習指導法講座第 1 回(招待講演), 2010 年 8 月 18 日, 群馬県太田市, 太田市教育研究所

上原景子, 小学校英語教育における外国語活動の充実に向けて:「英語ノート」を用いた楽しい英語活動, 平成 22 年度前橋市立元総社北小学校外国語活動ワークショップ(招待講演), 2010 年 8 月 5 日, 群馬県前橋市, 前橋市立元総社北小学校
上原景子, 小中 9 年間で養う英語によるコミュニケーション能力 小学校, 中学校それぞれで取り組むこと, そして連携, 平成 22 年度伊勢崎市小中英語教育研修会(招待講演), 2010 年 7 月 23 日, 群馬県伊勢崎市, 伊勢崎市教育委員会

〔図書〕(計 3 件)

上原景子, レイモンド・フーゲンブーム (監修), 開隆堂出版, SUNSHINE ENGLISH COURSE 1 Teacher's Manual 共同授業案, 2012, 244 頁

上原景子, レイモンド・フーゲンブーム (監修), 開隆堂出版, SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 Teacher's Manual 共同授業案編, 2012, 278 頁

上原景子, レイモンド・フーゲンブーム (監修), 開隆堂出版, SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 Teacher's Manual 共同授業案編, 2012, 257 頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

HOOGENBOOM, RAY (RAYMOND B. HOOGENBOOM)

群馬大学・大学教育・学生支援機構・准教授

研究者番号: 82436295

(2) 研究分担者

上原 景子 (KEIKO UEHARA)

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号: 40323323